少年消防クラブニュース

発行／一般財団法人 日本防火・防災協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
（日本消防会館内）
TEL 03(3591)7121　FAX 03(3591)7130
http://www.n-bouka.or.jp
（季刊・年4回発行）
印刷／株式会社 近代消防社

命を守る地域防災力

消防団を中核とした地域防災力充実強化大会

安倍総理も出席され開催!!

少年消防クラブが活動事例発表

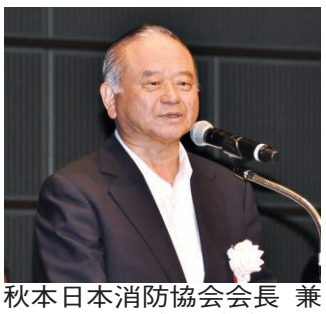
「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」が8月29日㈮、東京国際フォーラムにおいて、日本消防協会の主催で消防関係だけではなく幅広く各界の皆さん約1、500人が出席して開催されました。

この大会には、全国の少年消防クラブを代表して宮城県気仙沼市の階上中学校少年消防クラブ、埼玉県三郷市の三郷市少年消防クラブと東京都千代田区の麹町消防少年団が参加し、日頃行っている防火防災活動を披露しましたので、大会の概要とともに紹介します。

昨年の臨時国会で「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立しました。これは、地域防災の中核である消防団の充実強化を進めるとともに、消防団が重要な役割を果たしながら、地域の企業、各種団体はもとより、サラリーマン、女性、若者などを含む住民の皆さんの総力を結集して、地域防災力の充実強化を推進しようとするもので、これまでにない画期的な法律です。

この法律の趣旨をいかして、一人一人の安全を確保するためには、広く皆さんの理解を頂き、その参加のもとで国民運動的な盛り上がりを進めることが必要であり、この大会は、その第一歩となるものです。

大会は、平野啓子さん（語り部・かたりす）の司会進行で行われ、冒頭、日本各地の様々な災害により亡くなられた方々の御霊に対して黙とうを捧げました。次に、主催者を代表して秋本敏文日本消防協会会長、新藤義孝総務大臣、古屋圭司内閣府特命担当大臣（防災）、大会発起人代表の福地茂雄元日本放送協会会長の順で「地域住民の総力を結集することで地域の防災力の強化を」とそれぞれ挨拶されました。


秋本日本消防協会会長　兼
日本防火・防災協会会長

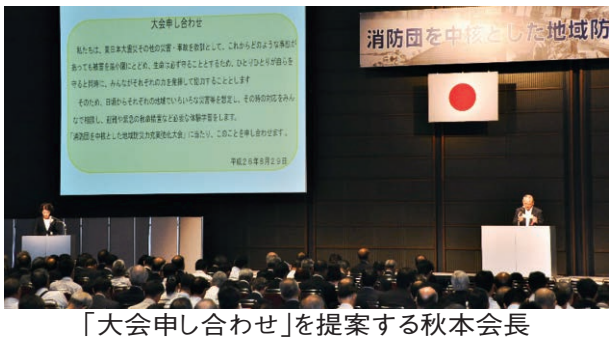
さらに、大会が進む中、安倍晋三内閣総理大臣が駆けつけられ、「東日本大震災などの大災害を経験し、首都直下地震や南海トラフ巨大地震などの発生が予測されるなか、政府としても地域防災体制の強化は喫緊の課題だと認識している。消防団への加入の促進や、団員の処遇改善、それに装備の充実が図られるよう、全力で取り組んでいく」と挨拶されました。

安部内閣総理大臣

福地元日本放送協会会長

古屋防災担当大臣

新藤総務大臣



「大会申し合わせ」を提案する秋本会長

発言する鈴木静岡県女性防火クラブ連絡協議会会長

また、会場内の参加者との意見交換も行われました。

山﨑日本放送協会解説主幹

福岡県福岡市を始め、全国各地の防火防災の活動事例が披露された後、山﨑登日本放送協会解説主幹から活動事例の総括コメントがありました。

最後に、主催者から「大会申し合わせ」の提案があり、参加者全員の賛同を得て決定しました。

また、会場の外で今年度消防団に交付される予定の「消防団防災学習・災害活動車両」の展示も行われました。

大会申し合わせ

私たちは、東日本大震災その他の災害・事故を教訓として、これからどのような事態があっても被害を最小限にとどめ、生命は必ず守ることとするため、ひとりひとりが自らを守ると同時に、みんながそれぞれの力を発揮して協力することとします。

そのため、日頃からそれぞれの地域でいろいろな災害等を想定し、その時の対応をみんなで相談し、避難や緊急の救命措置など必要な体験学習をします。

「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」に当たり、このことを申し合わせます。

平成26年8月29日

今回発表された少年消防クラブの防火防災活動を紹介します。

（2面に続く）

本紙は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

（1面から続き）

●宮城県気仙沼市　階上中学校少年消防クラブ

階上中学校少年消防クラブは、9年前から学校全体で総合防災学習に取り組んでおり、年間35時間の学習により、自助、共助、公助について3年サイクルで学習している。特に、総合防災訓練では生徒たちが、救出班、救護班、テント・トイレ班、炊き出し班、避難所班の5つの班に分かれて「私たち中学生が災害時にできること」を重点に積極的に参加している。

●埼玉県三郷市　三郷市少年消防クラブ

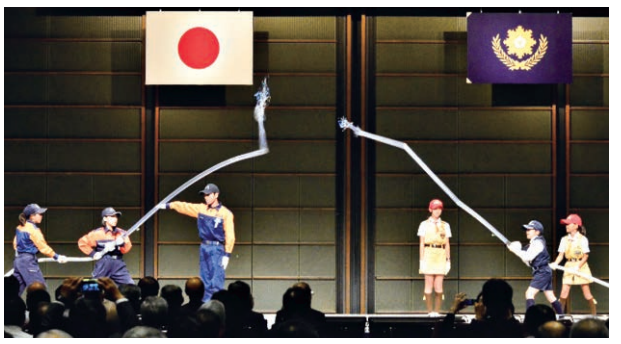
三郷市少年消防クラブは、幼少の頃から消防・防災に関する知識と技能を習得して、命と暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、軽可搬ポンプの操法訓練などを通し、規律や防火マナーを身につけ、将来の地域防災を担う人材への成長をめざしている。

●東京都　麹町消防少年団

麹町消防少年団は、小学校1年生から中学校3年生までの少年少女55名により組織されており、防火防災に関する科学的知識と軽可搬ポンプの操法などの技術を習得し、団体活動を通して規律や礼儀を守る習慣を身につけるとともに、地域社会に奉仕する心を養い、健全な心身を持つ少年少女を育成することを目的として防火防災活動を行っている。

活動報告した三郷市少年消防クラブと麹町少年消防団との合同で軽可搬ポンプでの操法を披露しました。

発表後、プロレスラーの蝶野さんがクラブの取組などにコメントされました。



軽可搬ポンプでの操法を披露

コメントするプロレスラー蝶野正洋さん

平成26年度 少年消防クラブ交流会が中止

平成26年8月6日㈬～8日㈮の日程で、徳島県で開催を予定していた初めての少年消防クラブ交流会の全国大会が、台風12号等に伴う大雨等の影響で中止となりました。

大会を楽しみにされていた少年消防クラブや開催に尽力されていた総務省消防庁を初め開催地徳島県の皆さん方には、大変残念な結果となりました。

今回のクラブニュースでは、交流会に初出場となるはずだったいくつかのクラブの活動状況を紹介します。

北海道　上江別第一自治会青少年防火クラブ

江別市消防本部

上江別第一自治会青少年防火クラブは平成25年に結成された新しいクラブです。

クラブ員は上江別小学校の4年生から6年生の児童で構成され、現在25名が在籍しています。

防火パトロール

結成にあたっては、少年期から防火・防災に関する知識を身につけるということだけではなく、地域の活動に積極的に参加することで、自分の住む地域や家庭の火災予防に貢献できるようになることを目的としました。

主な活動としては、夏休み期間中に『防火パトロール』を4日間に渡り実施しました。自治会役員や消防団員も参加する中で、拍子木を持ったクラブ員が大きな声で防火を呼びかけ、地域が一体となった活動となりました。

また、火災予防運動期間中にはイオン江別店において同じく市内にある幸町少年・女性防火クラブとの合同による『火災予防街頭キャンペーン』を実施しました。制服を着用したクラブ員が来客者1人ひとりに防火ティッシュを手渡しながら「火の元に注意してください」と火災予防について呼びかけていました。

その他にも、まだ結成して1年という短期間ですが、応急手当講習会に参加したり、防火訓練で応急担架作成要領や消火器の操作方法についても学んだりと積極的に活動をしています。

今後においても、新規事業を含めこれらの活動を継続することにより、子供たちがクラブで経験したことを活かして成長し、地域防災の未来に繋がるものと期待するものであります。

徳島交流会出場予定者　市長表敬訪問

青森県　福浦少年消防クラブ

福浦小中学校　中村　純樹

本州の最北の地、下北半島の最果てにある佐井村は、目の前に津軽海峡が広がり、世界で最も北に生息することでも知られる北限の猿や名勝仏ヶ浦を有する自然豊かな村です。当福浦地区では、児童生徒が火災を予防する方法や消火方法などを知ることにより、火災予防思想を向上させ、郷土を愛する気持ちと健全なる少年・少女の育成を目的として、昭和56年に福浦少年消防クラブを結成し、今年で33年目となります。

クラブは中学生3名、小学生が4名の福浦小中学校の全校児童生徒7名という少人数で活動しています。

毎日の取組として、福浦地区の夜廻りは「火の用心マッチ一本火事のもと」の大きなかけ声とともに全員で行っています。また、毎年参加している佐井村消防団定期観閲式では、大勢の前で軽可搬ポンプ操法を披露し、多くの方からお褒めの言葉をいただいております。しかし、これらの活動は決して福浦少年消防クラブだけの力で取り組めているわけではありません。佐井消防分署を始め、福浦地区の第7分団の指導者の方々に恵まれて活動することができています。特に今年度は、全国少年消防クラブ交流会に向けて、クラブ対抗リレーや障害物競争の指導をしていただきました。こころ待ちにしていた全国交流会は残念ながら大雨や台風の影響により中止となってしまいましたが、教えていただいた「もやい結び」などのさまざまな結索方法は、児童生徒にとって非常に勉強になったと思います。

全国各地では、8月の台風を始め、異常気象による二次災害も相次ぎました。

福浦地区においても、災害が起こる可能性はゼロではありません。地区の安全を守るためにも防火や火災予防だけではなく、津波や土砂崩れ等に対する知識も持ち合わせていかなければならないのではないかと感じています。今後ますます過疎化や高齢化が進むことが予想される地域ではありますが、福浦少年消防クラブが、地区の活性化と安心・安全につながるようにこれからも継続して活動していきたいと思います。

千葉県　浦安市少年消防団

浦安市消防本部少年消防団担当

浦安市少年消防団は、小学校5年生を対象に、2年間の活動を通して月1回の活動とし、第一期生は、男女合わせて46名により平成24年4月1日に発足しました。現在は、第二期生・三期生合わせて80名の少年消防団員が在籍しています。（平成26年4月1日現在）

年間の活動としましては、規律訓練、放水訓練、救助訓練、市外研修、救命学習、防火・防災学習、宿泊研修、火災予防啓発及び消防出初式での訓練披露等を行っており、消防団員が指導を行っています。

その中でも子供達から人気があるのが救命学習で、児童と保護者が自宅においても救命について学べる、ミニアン（CPR・AED学習キット）を全団員に配布し、AEDを用いた心肺蘇生法を学びます。

救命学習

また、市主催の防災訓練では帰宅困難者として訓練に参加し、海上自衛隊の船に乗船するなど、少年消防団に入団しないと経験できない事も数多くあります。

6年生になると、市内施設にて1泊2日の宿泊研修を行います。昼間は、班ごとに壁新聞作りを行うため、東日本大震災での本市の被災状況を観賞し、当時の状況や、市やボランティアの人々の行動を学び、夜は指導員と共にレクリエーションで楽しく遊びます。

徳島交流会出場予定者

宿泊を通じて団体行動の規律を学びながらも、普段学校が違う子供達も一緒に学び、一緒に遊ぶことにより、より一層仲が深まる様子が見られます。

そして消防出初式では1年間の集大成として市民等大勢が集まる中で、少年消防団による演技披露として通常点検や一斉放水を行います。指導員が活動で一番力を入れているのが規律で、月1回の活動の中で必ず指導を行っています。入団時はバラバラだったのが、出初式の頃には全員が動きを合わせようとする意識を持ち、入場行進や敬礼する姿に感動を覚えます。これらの活動をとおして、防火・防災に関する知識と技術を身につけてもらい、将来の地域防災の担い手となってほしいと考え、活動内容を検討し指導しています。

愛知県　竜神中学校少年消防クラブ

指導者　杉浦　友香

竜神中のミライのフツー！

竜神中学校の少年消防クラブは全校生徒709人です。年間を通して、防火・防災に関する様々な活動を実施し、生徒の災害対応力の向上を目指しています。また、地域を支える一員として、万が一の災害の際には地域に貢献できる人材を育てることを目標としています。

昨年度より私たちの中学校の卒業生が多く在籍する、地元消防団と連携し、避難訓練や防災訓練に指導者としてお招きし、指導していただいています。実際に指導を受けたクラブ員は、「大人になったら、私たちも人の役に立ちたい」等、大人の背中を見て防火・防災教育を学び、成長しています。消防団員の方々も、母校で指導できることを大変喜んでいて、多くの取り組みが実現できています。

また、地元企業であるトヨタ自動車と連携し、総合的な「防災教育」にも力を入れています。トヨタ自動車との連携では、「プリウスPHVから電力の供給が災害時に役立つ！」と題して「ESD（持続可能な社会の実現）」を意識した活動をしました。また、NPO活動団体と連携し、チャリティーウォーク、災害時の帰宅困難の備えや、東北支援企画として復興義援金を寄付するイベントに参加しました。

消防本部が主催する「消防フェスタ」や市の関係団体等が主催する「防災フェスタ」では、少年消防クラブ員として音楽を通じて防火・防災思想の普及を図る活動をしてきました。

災害時における初動体制をスムーズにするために、中学校を管轄する消防署と搬送訓練やトリアージなどの集団救急を中心とする合同訓練を行うなど、学校という教育現場において、災害想定が可能な限りの取り組みを積極的に行ってきました。この夏は、全国少年消防クラブ交流大会へは参加できませんでしたが、当クラブの「ミライのフツー」の実現の通過点として、多くを体験できるきっかけづくりになりました。

「関係機関と顔の見える関係」こそが、地域防災力の強化につながっていると実感しています。

時は経ち、～「after 10years」～　少年消防クラブ員だった私たちは、消防団員として「竜中」で訓練を教えています！これが、豊田市で「フツー」になっているように、竜神中学校から発信していきたいと思います。

※「ミライのフツー」は豊田市のホームページ参照

熊本県　ひかり児童館少年消防クラブ

指導者　陣内　英和

ひかり児童館少年消防クラブがある八代市は、元気で明るい心豊かな社会の実現を目指して、「笑顔deあいさつ日本一運動」を行っています。熊本県の南部に位置し山と海に固まれた自然豊かな城下町として発展した市です。

当クラブは平成17年5月1日に発足し、現在10年目を迎え今年度は20名の子ども達が活動をしています。少年期より火災予防の知識を培い、火災の減少・人命の尊重、そして心の明るい活発な少年として育ってもらう事を目的としています。主な活動は市内の少年消防クラブ合同で、研修会を消防本部で行っています。消防本部の職員の方の指導のもと、通報訓練や煙を充満させたテントの中を通り抜ける濃煙体験、水消火器や消防ホースを使った消火訓練など様々な体験をしています。他のクラブと訓練することで、良い刺激となり交流も深められています。

その他に、年2回のキャンプを行い、炊き出し訓練や水難救助体験、ハイキングなどいろいろな体験を通して礼儀・自立・助け合い・感謝といった気持ちを身に付けています。また、年末には夜間警戒を行い地元消防団と協力し地域住民に防火の呼びかけや住宅用火災警報器の設置推進等の広報活動を行いクラブ員や地域住民・地域の子ども達の防火意識向上に努めています。

これらの体験や活動を通してクラブ員の防火防災の知識向上だけでなく、元気で明るい心豊かな社会づくりに貢献できればと考えています。今後も自然と人と地域を大切にし、明るく活発な活動を続けていきたいと思います。

宮崎県　宮崎南小学校少年消防クラブ

委員長　日吉　健二

ドクヘリ見学

宮崎南小学校少年消防クラブは、1980年7月12日に設立され、今年で34年目を迎えました。宮崎市立宮崎南小学校の1年生から6年生で編成され、現在、男子4名、女子9名、合計13名の団員が所属しています。

私たちのクラブでは、防火防災に関する知識と技術を身につけるとともに、地域福祉活動を積極的に行い、集団活動を通して、地

（4面に続く）

（3面から続き）

域やその他の児童への防火防災についての意識の向上に役立つ活動を行っています。

毎月の行事では、宮崎市南消防署の職員から熱心な指導を受け、今年度は、6月に規律訓練やAEDを使用した救命講習を受講し、5、6年生の団員は、その講習で得た知識を活かして、PTAを対象とした救命講習の場で心肺蘇生法を模範展示し、指導の一端を担いました。

7月には、水の事故から自分の命を守る目的で、地元の青島海水浴場での着衣泳訓練を実施しました。顔を水面から出してあおむけに浮く「背浮き」ができなかった児童が、毎年訓練を重ねることで、だんだん上手にできるようになるなど、訓練の成果が着実に上がってきています。

着衣泳体験

また、9月は、宮崎大学医学部附属病院のドクターヘリやドクターカーの見学を予定しています。昨年度も同様の見学を行いましたが、実際にヘリが離着陸する現場に居合わせるなど、貴重な救命救急の現場を体験し、県内最先端の救急医療体制に触れることで、団員の防災や救命の意識の向上につながっていくと実感しました。

最後に、本クラブには、「①火の用心に努め、②礼儀正しく、③約束を守り、④自分のことは自分でやり、⑤素直にし、⑥お互いを助け、⑦常に感謝の気持ちを忘れない。」という団員が守るべき「7つの誓い」があります。私たち宮崎南小学校少年消防クラブは、この「7つの誓い」を掲げ、クラブ員としての自信と誇りを持ち、より充実した活動になるよう努力していきたいと思います。

少年消防クラブの活動

京橋消防少年団

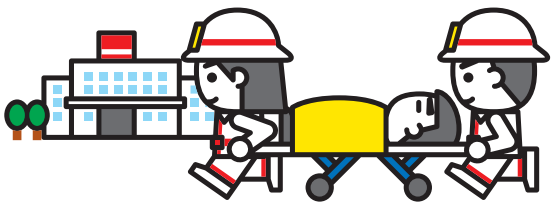
東京都

東京消防庁　京橋消防署
警防課防災安全係地域防災　担当　小管

京橋消防少年団では、いつ発生するかわからない大規模災害に備え、より実践的で意味のある防災教育が必要と考え、8月に防災拠点での避難所宿泊訓練を実施しました。

日中は、防災施設での体験型学習を実施。その後、地震発生を想定して、避難所に向かい、木材切断や応急担架作成などの救助訓練を行いました。

夕食はもちろん非常食。就寝は体育館に運動用マットを利用し、避難所生活の大変さを実感してもらいました。

団員の中には、食事についての不満を言う者もいましたが、隊長が「実際の避難所はもっと大変だよ！食べ物があるだけいいと思う。我慢しよう」と声をかけており、気を引き締める場面もありました。

また、参加した保護者からも「とても貴重な体験ができ、色々考えさせられました」との声があり、非常に有意義な避難所宿泊訓練となりました。